

専攻教員（兼担はのぞく）

開発・生産流通工学
技術経済, 技術革新,
技術政策



渡辺千仞・教授

技術経済システム・技術革新論・技術政策論を担当。2004年度から21世紀COEの「インスティテューショナル技術経営学」拠点形成プロジェクトの拠点リーダー。20名のメンバーとともに、「技術革新とインスティテューションとの共進のダイナミズム」の解明に努め、この分野での世界トップの研究教育を目指す。「やはり世界は広い」というのが、何年経っても変わらぬ実感。ウィーンでの国際応用システム分析研究所の技術顧問を10年続けるほか、米国の国際MOT学会・ロシア科学アカデミー・豪州理工学アカデミー・インド国際経営技術大学のアドバイザーをつとめる。これらの国際ネットワークを軸に、教える側教わる側ともに世界的展開に邁進。

開発・生産流通工学
マーケティング, 流通



鍾 淑玲・准教授

専門分野はマーケティングと流通。私自身は、特に台湾と中国における食品製造業と小売業のマーケティング戦略、流通の近代化・国際化、そして日本の観光地ブランド構築の3つの分野の研究に関心があります。

研究室では、マーケティングと流通の理論と応用全般を研究対象としています。例えば、マーケティングの製品、価格、流通チャネル、プロモーション戦略を掘り下げた理論研究、または、日本や海外市場における企業のマーケティング戦略、およびその比較研究。流通においては、小売業のイノベーションや国際化などの研究。

学生には自ら問題意識を持って、テーマの選定をしてもらいます。国際化社会に備えて、柔軟性と国際観が豊かな人材を育成することを目指しています。

開発・生産流通工学
生産管理, 品質管理,
ロジスティクス



圓川隆夫・教授

専門分野は、生産と品質のマネジメント。特に生産ではサプライチェーンマネジメント、品質では顧客満足及び新商品開発の観点から、それぞれのパフォーマンスが企業の経営成果にどのように結びつかのメカニズム、そしてその国際比較を、独自のデータベースを構築しながら進めています。研究室の教育方針は、「着眼大局」を旨とし、常に大局的な観点からの問題認識、問題発見(蛸壺に陥らない)と、経営工学の強みとして統計的、I E的な問題へのアプローチの仕方を強調しています。

開発・生産流通工学
人間工学, 認知工学



伊藤謙治・教授

伊藤研の目標として、現実の社会や組織で役に立つ、問題オリエンティッドな方法論・技術を創出することを目指しています。現在我々が行っている研究は、医療、あるいは鉄道の分野を対象としていることが多いのですが、その適用対象はどこでも構いません。また、研究の多くは、ヒューマン・エラー解析を含んだリスク管理の問題であったり、ユーザビリティの向上を目指したインタフェース設計・評価の問題、身障者向けのインタフェースの開発、あるいは認知作業を詳細に分析することによるシステム・製品設計への応用などですが、何をやっても構いません。

大事なことは、自分の興味を持っている分野で、社会に貢献しているという自覚(自信)をもって、自分が主体となって現実の難しい問題にどんどんチャレンジしていくことだと思っています。

開発・生産流通工学
加齢と技術, デザイン
と感情, 人間工学



梅室博行・准教授

研究室のミッションとして“Invisible Technology”を掲げています。技術を使っていることを意識することなく、でも必要な時にはきちんと助けてくれる、知らずに最先端の技術を使いこなしている。そんな高齢者から子供まで誰でも使える“奥ゆかしい”技術、楽しくて美しい技術のあり方を目指しています。最近のトピックはデザインと感情、感性品質、家族の心をつなぐコミュニケーションなどです。

座右の銘は「The best way to predict the future is to create it.」です。

研究室は多様性、すなわちさまざまなバックグラウンドを持った人、様々な感性を持った人、さまざまな夢を持った人が集まる集団を目指しています。

開発・生産流通工学
プロセス管理, プロセス
工学



村木正昭・教授

村木研では、「如何によい製品・設備をつくり、これを如何にうまく使うか」ということを念頭に、生産設備の企画・設計から運用・廃棄にいたるプラントライフサイクル、および資源採取から廃棄・リサイクルをふくむプロダクトライフサイクルの観点から、設備管理、生産管理、安全管理、環境管理などにおける種々の問題を対象に研究を進めています。

教育方針は、研究室のゼミなどを通して「自ら考え、問題(problems that should be solved)を発見し、解析し、解法を開発し、その有効性を示す能力」を養い、社会において活躍・貢献できる提案型の人材を育成することです。

開発・生産流通工学
経営財務、企業評価



蜂谷豊彦・准教授

蜂谷研究室では、主に企業財務、会計、経営分野を中心にした実証研究を行っています。各自の素朴な問題意識を尊重して研究領域を設定し、その領域のテキストや既存研究を学習しながら徐々に研究テーマを絞り込むというやり方をとっているため、研究テーマは多岐にわたっています。しかし、「現実の問題に関心を持つこと」、「そこから仮説を構築して適切な方法で検証すること」は共通です。

また蜂谷研究室は、他大学、他学科からの志望者や留学生など多様なバックグラウンドをもつ院生・学生が多いという特徴があります。多様性のなかでの切磋琢磨によって、自分を磨くことができます。

財務経営工学
応用統計、品質管理、
信頼性



宮川雅巳・教授

専門分野は応用統計学で、特に多変量解析、実験計画法、生存時間解析について理論と応用の両面から研究を行っています。統計学はたいへん歴史のある学問で、19世紀から実質的に使われ始め、その後は適用範囲の広がりとともに新しいモデルや手法が次々と開発されています。今日の高度情報化社会においてその傾向は一層顕著です。

統計学の研究には基礎数学と確率・統計の専門知識が不可欠です。大学院生には自らの動機付けのもとにテーマを選定し遂行してもらいます。修士課程のゴールは、既存研究の調査方法、テーマの絞り込み方、結論の導き方といった研究の進め方を習得することにあると考えています。

財務経営工学
会計情報論、企業評価



永田京子・准教授

永田研究室では、大きく①経営者がどのような判断や戦略の下で会計情報を作成しているのか、②そうして作成された会計情報が市場における株価形成にどのような影響を及ぼすのか、という2つのテーマに関する研究を行っています。経営者や投資家の視点に立って深い分析を行うためには、会計やファイナンスの知識だけでなく、日頃から現実起きてきている様々な経済事象に関心をもち、「なぜ？」と自分なりに問題意識を持って考えることが大切です。大きな可能性に満ち溢れる修士課程の2年間で密度の濃い時間にしましょう。

経営数理・情報
数値的最適化、OR、
金融工学



水野真治・教授

水野研究室では、経営工学上の様々な問題を解決するために、問題の発見・モデル化と数理的アプローチによるモデルの解析あるいは解法について主に研究しています。対象とする問題には、最適化問題、スケジューリング問題、ファイナンス問題、意思決定問題などがあります。

これらの問題をオペレーションズリサーチ、最適化、金融工学、統計科学などの道具を使い解決しています。研究室には、目的意識を持ち、やる気のある学生が集まっています。学生生活をエンジョイしながらも、やるべきときにはきちんとやれることが大切であると常日頃より思っています。

経営数理・情報
システム理論、情報
システム学



飯島淳一・教授

専門分野は、情報システム学とシステム論。特に、ビジネスアーキテクチャと統合した情報システム開発方法論、モバイルコマース、ビジネスにおける有効なIT投資のあり方、などに関心があります。人生哲学は、「A rolling stone gathers no moss.」です。

また、研究室での教育方針としては、現代数学や記号論理学をゼミを通じて身につけることにより、形式化の能力を養い、ゼミ、コンパなどにおける論議を通じて、コミュニケーション能力を養い、さらに、研究室生活全般を通じて、「あたり前のことが、あたり前にできるひと」になっていたきたいと考えています。

経営数理・情報
組織論、戦略論、知識・
情報システム



妹尾 大・准教授

研究分野は、経営組織論、経営戦略論、知識・情報システムです。個人と組織の動的プロセスについての理論構築を目指しています。具体的な研究プロジェクトは、知識創造支援ワークスタイルとワークプレイス（クリエイティブオフィス）の分析、知識継承リーダーシップの調査、顧客コミュニティ戦略の調査、ナレッジマネジメントツールの評価手法開発、などです。

研究室活動の目標は、経営基礎知識の習得、課題発見能力の向上、読解力と表現力の向上、多様な視点の獲得、共同作業の体験、研究方法論の習得、の6点です。研究室メンバーが重んじる価値は、一手を抜かず一生懸命やる、勇気をもって挑戦する、互いに尊重しあう、の3点です。

技術構造分析
技術史・技術論, 科学技術政策史, 日本技術史



木本忠昭・教授

本研究室では、技術史を研究対象としています。これに関してイギリスではなお、産業考古学的な、あるいは「偉人主義的な」手法も見られます。アメリカや大陸では「科学知識の社会的構成主義」を援用しての「技術の社会的構成主義」なる方法が提唱され、「ネットワーク論」や「アクター論」などが展開されているところです。人工物が組織、制度、金融などの社会的ファクターが、「seamless」「web」を形成し、「技術的社会システム」のなかで、「遅れた突出部」が次の新たな発展の「舞台」になるという議論もあります。興味ある議論ですが、人工物（すなわち労働手段）と、それ以外の社会的諸要素を、ごっちゃにしているのが焦点になると考えています。「技術史の方法」を整理すべき時期のようです。

技術構造分析
科学史, 科学の社会学, 物理学史



山崎正勝・教授

私がマンハッタン計画など核開発の科学技術史を研究してきた関係で、研究室周辺には、日本や米国の戦時動員や冷戦期の科学、ビッグサイエンスの歴史に関心がある大学院生や研究者が集まっています。この分野では、国際的なネットワークを持っています。学説史、特に20世紀の物理学史などにも興味を持っており、関係するテーマを研究した大学院生もいます。また、科学史や技術史の方法論的な問題、例えば、ピーター・ギャリソンのトレーディング・ゾーンや技術の社会構成主義なども大いに議論されています。

技術構造分析
論理システム論, 科学方法論



藁谷敏晴・教授

本研究室の研究領域は、主として数学的手法を使った論理学の研究です。したがって、数理論理学が主たる研究領域となります。論理の数学的基礎を探求するとき、必要となるのは1) 技術的側面と2) 技術的側面を支える理論的側面の二側面です。この二つの側面は密接に関係しており、技術的側面から見た論理が単なる計算技術体系以上のものになるためには、理論的側面からの論理の考察が不可欠となります。その際に必要となるのは技術的側面の基礎を研究するという態度です。したがって、哲学的考察が技術的能力の展開のために要求されます。こうした技術と理論に対する態度は一般に科学方法論と呼ばれている分野と密接に関連しており、したがって、本研究室では主として数理論理学の研究を行いますが、それを科学方法論的立場から、哲学的反省を以って行っています。

技術構造分析
科学史, 化学史, 比較科学史



梶 雅範・准教授

本研究室では、科学史を研究対象としています。科学史は、自然科学が歴史的にどのようにつくられてきたかを明らかにしようとする学問分野です。自然科学の学説的な内容の発展・展開を調べるだけでなく、自然科学やその研究者（科学者）がその時代の社会とどのような関係をもっていたのかを解明することを通して、現代社会における自然科学のあり方を考えることを目指します。

私自身は、ロシアや日本の19世紀・20世紀の化学という分野の歴史を研究しています。現代社会における科学者のあり方、化学物質と現代社会、環境問題などにも関心があります。現代における科学のあり方について、考えたい・調べたい・議論したいという学生を歓迎します。

技術構造分析
科学技術社会(STS)論, 科学/技術史



中島秀人・准教授

私の個人の研究は、17世紀の科学技術史、具体的にはロバート・フック（英国の科学者）の歴史的な位置づけの解明を対象としています。

研究室では、科学技術史に限らず、社会の中での科学技術というより幅広い観点から、院生とともに研究活動を行っています。現在在籍する院生たちは、18世紀の解析力学史、現代日本の科学技術政策決定メカニズムや問題点、医療と社会といったものを研究テーマとしています。多様な関心を持つ人々が集い、切磋琢磨できる楽しい研究室づくりを心がけています。

専攻教員の研究分野にはどのようなものがあるのでしょうか

指導教員		講座／研究科	主な研究分野
教授	渡辺千仞	開発・生産流通工学	技術経済, 技術革新, 技術政策
准教授	鍾 淑玲		マーケティング, 流通
教授	圓川隆夫		生産管理, 品質管理, ロジスティクス
教授	伊藤謙治		人間工学, 安全工学, 認知工学
准教授	梅室博行		デザインと感情, 感性品質, 加齢と技術, 人間工学
教授	村木正昭		プロセス管理, プロセス工学
准教授	蜂谷豊彦		経営財務, 企業評価
教授	宮川雅巳	財務経営工学	応用統計, 品質管理, 信頼性
准教授	永田京子		会計情報論, 企業評価
教授	水野眞治	経営数理・情報	数値的最適化, OR, 金融工学
教授	飯島淳一		システム理論, 情報システム学
准教授	妹尾 大		組織論, 戦略論, 知識・情報システム
教授	木本忠昭	技術構造分析	技術史・技術論, 科学技術政策史, 日本技術史
准教授	中島秀人		科学技術社会(STS)論, 科学/技術史
教授	山崎正勝		科学史, 科学の社会学, 物理学史
准教授	梶 雅範		科学史, 化学史, 比較科学史
教授	藁谷敏晴		論理システム論, 科学方法論
☆教授	京本直樹	知的財産マネジメント 分野／イノベーション マネジメント研究科	IP戦略, 係争, ライセンス
☆教授	佐伯とも子		知的財産活用分析, 特許保護マネジメント
☆准教授	田中義敏		企業経営と知的財産, 国際知的財産
* ☆教授	比嘉邦彦	イノベーション マネジメント研究科	経営情報システム, データベース, テレワーク
* ☆教授	二宮祥一		数理ファイナンス, 確率数値解析
* ☆教授	宮崎久美子		科学技術政策, 技術経営戦略

* のついている教員は、指導教員として志望することはできません。

☆ " , イノベーションマネジメント研究科所属の兼任教員です。